

第16回福島問題研究会 議事録（ダイジェスト版）

日 時： 平成28年7月8日（金）14：30～17：30

場 所： 化学工学会会議室

出席者： 日本原子力研究開発機構（JAEA） 山本正弘氏

（敬称略、順不同）横堀、小林、橋本、松井、松田、鈴木（記録）

議 題：

JAEA 山本正弘氏を招いて意見交換会を実施した。

(1) SCE-Net 福島問題研究会の状況説明（横堀）（資料：化学工学会 SCE-Net 福島問題研究会の紹介）

研究会の目的、設立の推移、昨年度の活動、取り組み状況等を説明した。

(2) 化学産業における化学工学の役割と位置づけ（小林）（資料：化学産業における化学工学、プロセス開発とは、トラブルシューティングとは）

化学工学会（本会）における福島問題への取り組みの経緯と現状、化学産業における化学工学の役割、情報と評価の共有システム、高度安定運転技術の考え方、危険プロセスの安定運転を長年実践してきた経験から感じる原発の過酷事故対応への疑問点、原子力村への化学工学技術者からの提言、等を説明した。

(3) 福島第一原子力発電所の現状と対応策（山本氏）

*2011年3月以降、現在までの国（経済産業省、資源エネルギー庁）、事業者（東電）、および JAEA の取り組みの経過、NDF、IRID など組織の役割と変遷、リスク低減の考え方、中長期ロードマップの内容と時間経過に伴う変遷、JAEA における研究開発体制の経過と現状、文部科学省による廃止措置加速化プラン等が詳細に説明された。

*オンサイトの現況、特に汚染水処理プラントおよびタンクの経過と結果、設備保全の考え方、現在進行中の圧力容器、格納容器周りの汚染水の状況、今後予想される未対応の技術的課題等が示された。

(4) 討論

以上の説明を基に化学工学の果たすべき課題と役割について討議した。

*吸着、凝集沈殿等に属する化学工学技術に期待される課題のほとんどは既存の技術によって対応できるレベルのものであるが、AREVA、AIPS 等での放射性物質分離後に残る高線量放射性物質を含むスラリーの取り扱いに関しては濃縮、減容のための新規の研究開発が必要と思われる。

*いずれにしてもこれらの課題解決の発注元は事業者であり、現在の喫緊の課題（例えば過酷環境におけるロボット技術、計測センサー技術等）に比べると問題が顕在化するのはいずれの話で、具体的に求められるのは時間的には数年後以降になると予想される。

*JAEA 主体の「廃炉国際研究センター」（楡葉町）の見学が可能で、秋以降に実施を検討することとした。

(5) 次回開催予定： 9月2日（金） 14：30～17：30、化学工学会応接室

以上